



Subaru

男声合唱団 ニュース №344 '12. 01. 16

大阪自治労うたごえ祭典にゲスト出演

1月15日



□1月15日（日）、「大阪自治労うたごえ祭典」が阪急淡路の「クレオ大阪北」で催され、「昂」はゲスト出演し30分のステージを勤めました。奥村さんの体操とリハーサルの後、本並先生の指揮、森先生のピアノ、立川さんの司会で「私の好きなこの街」、「林道人夫」、「死んだ男の残したものは」、「ねがい」、「百万本のバラ」、「歓びのナーダム」、最後に「フィンランディア」を高らかに歌い上げ、会場の共感を呼びました。ステージ上は全30名、三谷さんと青木さんも客席で参加してくれました。



□森先生は突然のステージ依頼になり、大曲ばかりのピアノをお願いしましたが、恐らくかなりの練習をつまれて、立派な演奏をしていただきました。一同感謝！

□ステージの後、十三まで場所を移して大衆酒場チェーン店で、大勢参加で反省会。まだ足りないと二次会で回転すし、その後喫茶店でコーヒーとフルコースだった一行も。

□「私の好きなこの街コンサート」の「感想文集」が出来上がり配布されました。編集印刷製本は吉田さんの御苦労によるもので、おかげさまで立派な冊子が出来上りました。有難うございました。

甦れ！一本松よ

2011.11.21~2011.11.22
東日本大震災復興支援
「私の好きなこの街コンサート」
吉田真由・大阪浅

監修：復興支援「私の好きなこの街」コンサート

毎日新聞一面トップ記事になりました！（1月16日朝刊）

かのんは元気 頑張つてるよ

第46461号 明治高

毎日新聞



コソサートで、一緒に歌う村嶋由紀子さん（右）と熊谷海音さん

—岩手県陸前高田市の気仙大工左官伝承館で15日午後、手塚耕一郎撮影

陸前高田 小2震災遺児 復興の歌

神戸の元教諭と共に

2人は神戸市立中学の元教諭の

村嶋由紀子さん（64）＝兵庫県芦屋市＝と、陸前高田市立高田小2年の熊谷海音さん（8）。海音さんは、震災で父（当時43歳）、母（同37歳）、姉（同9歳）、母方の祖母（同60歳）を亡くした。

「元気で頑張っている」と天國の家族に伝えたいから、孫がどううしてもここで歌いたいと……」。昨年11月、村嶋さんらが開いた復興支援コンサート。海音さんの父方の祖母（70）が村嶋さんに訴えた。海音さんが震災遺児だと知った村嶋さんは「歌いたいという意

思を大切にしなければ」と思った。

海音さんはステージで「ロケットくれよん」という音楽グループの作った復興支援ソング「みかづきスマイル」をアカペラで歌った。

海音さんは仙台市若林区で両親と姉の4人で暮らしていた。昨年3月11日、母は姉と車で海音さんを連れて行く途中で津波にさらわされたらしい。父も会社の同僚に「事務所に1回寄るから」と電話で連絡した後、消息を絶った。海音さんは、陸前高田市の父方の祖父母に引き取られた。

村嶋さんはコンサート後すぐに

阪神大震災で中学生の心のケアにあたった元教諭の女性と、東日本大震災で両親と姉、祖母の4人を亡くした岩手県陸前高田市の小学2年生の女兒とが、15日に陸前高田市で元教諭らが開いたコンサートで共に司会を務め、復興を願う歌を歌った。2人の出会いは2カ月前。陸前高田市で元教諭らが開いたコンサートで、女兒が会場で「天国の家族に歌を聞かせたいので、ここで歌わせてほしい」と訴えたことがきっかけ。「奇跡の出会いで今日の縁になりました」。元教諭は、女兒を観客に紹介した。（後藤豪）

海音さんに手紙を書いた。阪神大震災後の11年間、中学生の心のケアを担当した経験があつたからだ。「またかならず陸前高田に行きますので、あってくださいね。歌がいっしょに歌えたらうれしいです」

先月、海音さんから「コーラスのおばちゃんへ」と書かれた返事が届いた。「おばちゃんに、「かのんちゃんを、うちのコーラスに入れたい」と言われてとてもうれしかったです。また高田に来たらコ

西島さんの切り撮ってみる

2012年初詣

辰年なので、名誉団長も住む富田林の龍泉寺へ龍詣でに行きました。

昔この地に池があり悪い龍が棲み人々に被害を与えていました。推古天皇の勅命により、蘇我馬子が寺院を創建しこの悪龍を追い出しました。ところがその後、池の水は枯れ、付近の湧水も少なくなり人々は困っていました。この地を訪れた弘法大師が池にむかって七日間の祈祷をすると、再び龍が現れ、池には清水が満々ともどり、三つの島ができました。これらの島には右から左へ聖天、弁財天(写真は中央の島)、叱天の祠があります。現在この池は国指定名勝「龍泉寺庭園」となっています。

今でもここには龍が棲み、田や林を富ませているそうな！？

年頭の祈り「龍年や今弘法や来てほしや」

